

議事要旨

会議名	令和5年度第1回板橋区環境教育推進協議会
開催日時	令和5年11月1日（水） 午前10時30分～正午
開催場所	第一委員会室
出席者	<p>【委員 19名】（敬称略） 小澤委員、幸田委員、藤森委員、岩本委員、高田委員、増淵委員、石川委員、中田委員、奥積委員、山田委員、檀上委員、秋庭委員、バニヤ委員、磯崎委員、岡部委員、市之瀬委員、奥泉委員、岩田委員、水野委員</p> <p>【事務局 9名】 環境政策課長、環境教育係4名、資源循環推進課長、指導室長、指導主事1名、エコポリスセンター館長</p>
会議の公開 （傍聴）	公開（傍聴できる）
傍聴者数	1人
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員の委嘱 2 部長あいさつ 3 座長、副座長の選出 4 議事 <ul style="list-style-type: none"> （1）板橋区環境教育推進プラン2025の進捗状況について （2）専門部会「環境教育実践研究部会」について 5 閉会
配付資料	<p>資料1 板橋区環境教育推進協議会委員名簿</p> <p>資料2 板橋区環境教育推進協議会設置要綱</p> <p>資料3 板橋区環境教育推進プラン2025（概要）</p> <p>資料4 板橋区環境教育推進プラン2025の進捗状況について</p> <p>資料5 板橋区環境教育推進協議会の専門部会の位置づけについて</p> <p>資料6 令和5年度板橋区環境教育実践研究部会 活動内容及び進捗状況</p> <p>資料7 環境教育実践報告書（個人情報を含むため非公開）</p>
所管課	<p>資源環境部環境政策課環境教育係</p> <p>（電話：3579-2233）</p>

<p>審議状況</p>	<p>1 委員の委嘱</p> <p>区長が所用のため出席できず、代理として資源環境部長により委嘱状の交付が行われた。(欠席者分は氏名のみの紹介とし、委嘱状は後日事務局より本人へ送付した。)</p>
	<p>2 部長あいさつ</p> <p>資源環境部長によるあいさつが行われた。</p>
	<p>3 座長、副座長の選出</p> <p>幸田委員より、小澤委員を座長に推薦する旨の発言があった。出席者の異議はなかったため、小澤委員が座長に選任された。</p> <p>増淵委員より、幸田委員、藤森委員、岩本委員の3名を副座長に推薦する旨の発言があった。出席者の異議はなかったため、上記3名が副座長に選任された。</p>
	<p>4 議事</p> <p>(1) 板橋区環境教育推進プラン 2025 の進捗状況について</p> <p>事務局より、資料3及び資料4について説明が行われた。</p> <p>—質疑応答—</p> <p>(磯崎委員)</p> <p>資料4、表2にある「基準年値」は適切なものなのか。努力により前年度より数値が増えているものがあるのに、結果として「停滞」という評価になっているのには疑問が残る。過小評価することはいいことであるが、出来たことを認め、さらにその上を目指すような目標の立て方がいいのではないかと。担当者のモチベーションを考慮するような評価体制を大事にするべきだと思う。</p> <p>(事務局)</p> <p>現在の評価方法について「途中経過をどのように評価するか」ということは、今後の検討課題であると認識している。昨年度比で増となっている実績も重要な要素であるので、これをどの程度進捗評価に反映していくかについても、いただいたご意見を参考に、今後考え方を取りまとめていきたい。</p> <p>(磯崎委員)</p> <p>SNS のフォロワーが増えているのは、努力した結果だと思う。しかし、すべての情報を効果的に周知・拡散していくことには限界がある。板橋区に関わっている著名人をイベント等に巻き込むことで、効果的なPRができるのではないかと。</p> <p>(事務局)</p> <p>SNS については、多様な展開の仕方があり、まだまだ伸びしろがあると考えている。多くの区民の方々に周知できるよう、機会の拡大を進めていきたい。</p> <p>(磯崎委員)</p> <p>施策3「人材の育成・活躍促進」では、「参加人数」「派遣人数」を指標にしているが、量的評価ではなく、質的評価(講座受講者がその後活動しているかどうかをアンケート調査・分析)することで、活躍促進に関する具体的な実績が得られるのではないかと。</p>

(事務局)

人材育成については、量・質の両面による評価が重要と考えている。次期計画の策定の段階でも、成果指標、数値目標の見直しを検討していきたい。

(磯崎委員)

施策4「場・拠点の整備・活用」において、進捗度が停滞の要因として「構成員の高齢化」とあるが、高齢化自体を問題にしているのでは前向きな検討ができない。これからの時代は、高齢化を前提としたうえで何ができるのかを検討していくことが有効だと思う。

(事務局)

団体の活動の高齢化については、より広い世代の参画を視野に入れながら、高齢化の現状にどう対応していくか熟慮を重ねていきたい。引き続き、団体の方々に継続的な活躍の機会を提供していきたい。

(秋庭委員)

数字だけではなく、行動変容のフォローを続けていくことが重要だと思う。

講座アンケートに回答しなかった、または否定的な回答をされた参加者の分析を進めていくことで、良い成果につなげることができるのではないかな。

(事務局)

潜在的・対極的な意見を吸い上げることは、重要なことであると認識している。事業やサービスを「利用しなかった」理由を問うアンケートを行う等、今後も幅広い声を集めながら分析を進めていきたい。

(藤森委員)

コロナ後の世の中は、「元に戻っていく」のではなく「新しい体制に代わっていく」ように感じている。そのため、新しい時代（ニュートレンド）とマッチしたものを提供していかないと、参加者は増えていかないのではないだろうか。

(幸田委員)

コロナ禍においても、出来ることを続けてきたことは評価に値する。どのような状況の中でも、創意工夫しながら事業を一步一步進めていくべきである。

実施した環境講座は、可能であれば動画にして公開し、参加できなかった方々も見られるようにすると良いのではないかな。

(2) 専門部会「環境教育実践研究部会」について

事務局より資料5について、環境教育実践研究部会長の岡部委員より資料6について説明が行われた。

－質疑応答－

(藤森委員)

環境教育プログラムは、小中学校の授業の中で実施するものなのか。

(岡部委員)

小中学校の場合は、授業カリキュラムの中で実施している。一方で、今回のあいキッズは授業カリキュラム外（小学校の夏休み期間）に実施した。

(藤森委員)

あいキッズの児童は自主的にプログラムに取り組んでいるのか。

(市之瀬委員)

その通りである。放課後や夏休み等、授業外の時間で自主的に参加している。

(藤森委員)

小中学校の環境学習の現状は、総合的な学習等限られた科目の中でしか盛り込むことができないのか。それとも、各教科の中に工夫して盛り込んでいるのか。

(岡部委員)

以前、本協議会を立ち上げたばかりの頃は、環境教育を実施すること自体が目的であった。現在では、環境教育を「手段」として使うことが多くなってきた。中学校では環境問題の現状を学ぶだけでなく、現状を改善するために自身の生活をどのように変えていけばよいかを考える授業を行っている。

(小澤座長)

環境学習のねらいは環境問題やその対策を「覚えること」ではない。

あいキッズという、子どもたちが自由遊びや体験交流活動等を行う場で、様々な学年の児童がそれぞれの価値観を持ち寄って共に考えることは効果的な取組である。

時代に合わせて内容を転換しながら、児童生徒の行動変容を促すように事業を展開していくべきである。

知識伝達型の授業ではなく、対話を繰り返しながらそれぞれの価値観を育てていく取り組みを今後も期待している。

(バニヤ委員)

出身地のネパールと日本の環境学習を比べると、ネパールでは基本的な環境配慮のための知識やマナー（ごみの分別・リサイクル等）を十分に教わってこなかった。日本に来て、質の良い様々な環境教育を経験でき、母国に活かせるものも多くあると感じた。

(幸田委員)

環境学習は、人々の生活の基礎である。板橋区の環境教育プログラムは、大人も勉強になる素晴らしいものであると感じている。

(小澤座長)

各教育施設とエコポリスセンターがより連携していくことを望む。

環境学習は、概念形成から始めるべき。これにより自然に探究心が育っていく。

大人の価値観を押し付けるのではなく、古来続けてきたものを活かしながら、どのように意識改革・行動変容を促すかを、今後も議論していきたいと考えている。

現代の学習の形態が変わってきている。タブレットを配るだけでなく、デジタル化に合わせた機材の更新や、ネットマナーの教育等も併せて実施していく必要がある。

5 閉会

座長より、閉会の宣言が行われた。